

中小企業景況調査結果

【平成 29 年 10 月～12 月】

平成 30 年 1 月
富士商工会議所調べ

◇ 調査実施要領 ◇

富士市内中小企業の景気動向と経営状況について調査を実施した。
製造・建設・卸売・小売・サービス業の 5 産業、200 事業所(回収率 68.5%)を対象に、
「平成 29 年 10 月～12 月」の 3 ヶ月間の生産・売上および経営状況の調査を行い、その結果を産業別
にまとめた。

DI (景気動向指数) とは

『上昇・増加・好転』したとする企業割合から、
『下降・減少・悪化』したとする企業割合を差し引いた値。

前期…29 年 7 月～9 月 今期…29 年 10 月～12 月 来期…30 年 1 月～3 月

表中の矢印=5ポイント以上の推移を上下矢印で表し、5ポイント未満は横ばい矢印で表示した

◇ 今期調査の概況 ◇

主要DI	前回調査		今期調査 (前年同期)		来期予測
業況	▲14.2	→	▲10.6 (▲13.4)	↓	▲15.6
売上	▲0.7	→	▲0.7 (0.8)	→	▲1.5
採算	▲17.7	↓	▲23.4 (▲14.7)	→	▲22.7

今期調査では、全産業合計の業況 DI は強含みの横ばいとなったが、来期は下降を予測、売上 DI は今期・来期予測とも横ばい、採算 DI は下降となり、来期も横ばいの予測となった。

全産業合計の業況・売上・採算 DI は、平成 28 年度第 2 四半期より回復基調となっていたが、平成 29 年度第 1 四半期に下降となった。その後(前期・今期)の売上・業況 DI は大きな変動はなかったが、採算 DI のみ 3 期連続下降し、28 年度第 2 四半期(0.0 ポイント)に比べ今期は 23.4 ポイント下降となった。

今期の採算 DI を産業別にみると製造業・小売業・サービス業が下降し、特にサービス業は来期も下降を予測している。上昇となった建設業・卸売業も来期は下降を予測しており、コメントにおいても「価格競争により利益が出ない」「需要はあるが、採算がとれない」という声が寄せられている。

経営上の問題点では、製造業は「商品、原材料仕入れ価格の上昇」と「設備老朽化」が 1 位、建設業は「売上減に伴う利益減」と「人材不足」が 1 位、卸売業は 8 期連続で「過当競争」が 1 位となった。小売業は「売上、利益減による資金圧迫」が 1 位、サービス業は「売上減に伴う利益減」が 1 位となった。

◇ 全産業の動き ◇

〔業況のDI〕 建設業、卸売業、小売業は上昇。製造業は横ばい。サービス業は下降。
 来期は、製造業、小売業は上昇を予想。サービス業は横ばいを予想。建設業、卸売業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	0.0	→	▲2.8 (▲15.1)	↗	8.6
建設業	0.0	↗	11.6 (3.9)	↘	▲16.6
卸売業	▲8.7	↗	0.0 (▲9.1)	↘	▲20.8
小売業	▲50.0	↗	▲30.5 (▲31.9)	↗	▲22.8
サービス業	▲29.2	↘	▲37.5 (▲16.7)	→	▲39.1
全産業	▲14.2	→	▲10.6 (▲13.4)	↘	▲15.6

〔売上高のDI〕 建設業、小売業は上昇。卸売業、サービス業は横ばい。製造業は下降。
 来期は、製造業、卸売業、小売業は上昇を予想。建設業、サービス業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	12.9	↘	0.0 (12.1)	↗	13.9
建設業	13.8	↗	30.8 (3.8)	↘	▲4.0
卸売業	4.3	→	0.0 (▲9.1)	↗	12.5
小売業	▲35.0	↗	▲26.1 (▲9.1)	↗	▲13.0
サービス業	▲16.6	→	▲12.5 (0.0)	↘	▲25.0
全産業	▲0.7	→	▲0.7 (0.8)	→	▲1.5

〔採算のDI〕 建設業、卸売業は上昇。製造業、小売業、サービス業は下降。
 来期は、製造業、小売業は上昇を予想。建設業、卸売業、サービス業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲10.3	↘	▲25.0 (▲12.1)	↗	▲5.5
建設業	▲6.9	↗	0.0 (▲15.4)	↘	▲24.0
卸売業	▲13.0	↗	▲4.2 (▲22.7)	↘	▲12.5
小売業	▲50.0	↘	▲59.1 (▲31.9)	↗	▲34.8
サービス業	▲20.8	↘	▲33.4 (3.8)	↘	▲45.8
全産業	▲17.7	↘	▲23.4 (▲14.7)	→	▲22.7

◇ 産業別の動き ◇

※コメントは回答に基づき要約しています。

【製 造 業】 景気ムード…【低 調】

『製紙』…「パルプは大幅に値上がり、古紙は入荷が困難になっている。」「古紙は高値のまま変わらない。製紙会社は厳しい状況と思われる。」との声。今後について「古紙の高値が続くようであれば、製品の値上げや業界の再編などの対応が必要になるとと思われる。」とのコメント。

『紙加工』…「家庭紙業界内では設備投資が活発になっており、2020年に向けて生産を強化している。」との情報。「業界は今後も横ばいに推移すると思われる。原材料のコストアップと為替の動向で利益が左右される為、為替対策は必須である。」とのコメント。

『機械器具』…「総じて横ばいだが、海外向けは好調である。」との声。「主要顧客の一つである板金機械メーカーの生産計画では、前期に対し約20%増の生産台数を見込んでおり、その計画は来期以降も続くと思われる。北米向け製品の増産、中国向けの合理化タイプの低価格機械等の受注もあり、国内外向けともに伸びているようである。その他、工作機械関連の顧客も20~30%の増産予定を見込んでいる。」との情報。「電気業界は好転しているが、過密スケジュールとなり人員不足である。」「需要はあるが、人員・人材不足により売上を伸ばすことができず、経営に影響がでている。」との声。「日野自動車では、2007年に海外販売台数が国内を上回り、2017年には11万6千台と国内販売の約2倍になる見通しである。トラック業界全体は、普通トラック販売台数が3ヵ月連続前年同月を割り込んだ。9月から適用された排ガス規制の駆け込み需要が8月にあり、その反動が全体の数字を押し下げる傾向となっている。」との情報。また、「メーカーの内製化が進み、下請けへの受注が減少傾向にある。今後、製品単価の引き下げに応じる為、更なるコスト削減をしなければならない。」との声。

『機械部品加工』…「順調に推移しており、今後も仕事量は増加すると予測している。しかし、同時に原材料の価格が上昇しており、利益確保が難しくなると思われる。」とのコメント。「自動車部品に関しては、検査員不正問題で11月中旬頃から受注減となってきた。」との声。

『繊維加工』…「人員及び人材不足による生産性の低下が予想される。」とのコメント。

『食品』…「年末年始の為、需要が増え繁忙期となるが、景気回復とまでは言い難い。年明けは需要が落ち着く為、売上減少の対策が課題である。」との声。「深刻な人手不足である。様々な手段を講じているが効果がない為、今後は大幅な業務改善が必要となる。」「大きな変化はない。中国原料の価格・品質が安定してくるのではないかと予測している。」「小売業界は大手企業の合併等により販売が不安定になっている。物流関係も大きく変動すると思われ、経営努力ではどうにもならないことがある。今後、個人企業の事業継続が難しくなると思わる。」とのコメント。「寒くなってきたので、お茶の売上は、多少伸びると思われる。」との予測。

『その他』…「富士バンジージャンプ利用者が5,000人を超えている。」とのコメント。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	13.9	69.4	16.7	▲2.8	上 昇
売上高	30.6	38.9	30.6	0.0	上 昇
採 算	8.3	58.3	33.3	▲25.0	上 昇

【建 設 業】 景気ムード…【低 調】

『総合建設』…「官公庁・民間工事ともに発注量が増えなく、発注価格も低い為、厳しい状況が続いている。」「公共工事減少により民間工事に各社が集中し、価格競争が激しくなっている。」「過当競争の激化

による悪化が今後も続くと思う。」「過当競争により、販売価格の低下が著しい。年明けは仕事が毎年少ない。」「当面、材料費の高騰と受注価格競争により粗利の減少が続くと思われる。」との厳しい声が寄せられた。また、「景気が上向いている様だが、まだ売上には結びついていない。」とのコメント。「長時間労働等の労働条件や労働環境への対策が課題となっている。今後、労働対策による生産性低下が懸念される。」「人員・人材不足が進み、新規・中途入社とも確保が難しい。」との声。

『一般住宅』…「建築に関する職方の高齢化と後継者がいないことにより、技術者が減少している。」との情報。「人口減少、空き家の増加により状況は厳しくなる。」とのコメント。

『建設関連』…「総じて景気が良いと思う。建設計画も多い。」「民間工事が増加してきた。来年6月からは、ららぽーと沼津の工事も本格的に始まる。また、クリーンセンターの現場が動き始め、官公の仕事も増加傾向となる。しかし、人員・人材不足が不安である。」との一方「勝ち組と負け組の二極化が益々進んでいる。売上・利益減による資金圧迫で見通しは暗い。」との声。「東京オリンピックに向けて、人材が東京方面に流れ始めているようだ。この動きにより2020年までは、人件費・資材費は高騰していくと思われる。」「大手企業の不祥事の対応策として、官公庁をはじめ、民間も技術者や技能の資格要件が厳しくなっており、対応できない企業も出てくると思う。」とのコメント。

『土木関連』…「新規工事は相変わらず少なく、既設施設の改修、樹木の間引き伐採等が主になっている。指定管理者制度の運用が今まで以上に各業種に適用され、市からの直接発注が少なくなり、市内の業者は、請負額の減額を容認する状態が起きている。」との情報。「造園業は正月前の庭木の手入れで忙しいが、公共工事の減少と低価格競争で見通しは暗い。」「公共工事発注が減少しており、来期も期待できない。」と厳しい声が多い中、「多少上向いている。」との声も。また、「全体的な需要の増加はないが、同業者（骨材・コンクリ等）の激減により弊社の出荷量は増加した。しかし、販売価格の低迷が大きな問題であり、何とか解決を図って行くしかない。富士市の活性化を図る為、行政には企業誘致及び地元企業の支援を積極的に行ってもらいたい。」とのコメント。

『その他』…「吉原工業高校から間門入口に通じる道路の拡幅工事が前年度で中断していたが、来年度から再開される模様。」との情報。「常葉大学の移転により、若い世代の減少、収入減、人手不足等が懸念されている。活性化に繋がる対応策が必要だと思う。」「JR東海に対し、身延線の富士駅から新富士駅までの延伸要望が受け入れられなかった。観光等で国内外から訪れる方々の不便を考えると情けなく思う。」とのコメント。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	30.8	50.0	19.2	11.6	下降
売上高	42.3	46.2	11.5	30.8	下降
採算	19.2	61.5	19.2	0.0	下降

【卸売業】 景気ムード…【安定】

『製紙原料』…「産業古紙の発生が非常に悪化しており、製紙メーカーへの完納ができていない。」「中国の環境規制により来年以降ミックス古紙は全面的に輸入禁止となり、その他の古紙も中国メーカー向け輸入ライセンス枠の許可が慎重に実施される。その為、日本国内の古紙不足は解消となる可能性が高まると思われるが、中国の動向には目が離せない。」「中国への輸出に左右される。段ボール、新聞は良いが、家庭紙用の原料は益々規制が厳しくなり、選別の過程など重要視してくると思われる。」との声。「大量生産・販売ができる企業が勝ち組となり、中途半端な企業は方向性を変えないと、取り残される時代となった。企業規模に関わらず、工夫できる企業が伸びていくと思われる。」とのコメント。

『機械器具』…「全般的に良好。当面は良い状態を維持すると思われる。」との声。「売上高は前年同期を上回っているが、原材料の値上げ要求が年末から続く為、先行きは不透明である。」「製紙業界は来年稼働予定の新工場建設の話があるが、地元業者が受ける影響は予測できない。」とのコメント。事務機では

「景気が悪い頃に下がってしまった販売価格を上げることが難しく、売上が増加しても利益の増加に繋がりにくい。」「来期は受注が幾つか決まっており、売上・利益ともに増加が見込める。」との声。「取引先の工場では、即戦力となる60才以上の工場勤務経験者を積極的に雇用するところが増えている。」との情報。

『**建築材料**』…「日本の人口及び世帯数減少の影響が将来的にある為、生産体制をMAXにできない。」「2019年に消費税率引き上げとなり、コストが上昇する可能性がある。」「確実に住宅着工はマイナスに向かうが、非住宅（中大規模建設）の木造が増える可能性が高い。大工や職人の高齢化による人材不足が大きな問題になると予想している。」とのコメント。

『**紙**』…「年末の需要期に入っている為、動きはある程度良い。製紙メーカー（板紙）も在庫が少なく品薄感がある。」「主原料である原紙の値上げを売価に転嫁する承諾を取引先から徐々に得ている状況。」との一方、包装資材では「個人商店の廃業及び需要の低下に伴い不振である。」との声。

『**再生資源**』…「鉄スクラップ輸入国である中国が、スクラップを東南アジアに大量輸出した為、国内市場がダブついてきた。非鉄金属も最大消費国の中国経済の足踏み状態により、価格が弱気になっている。」「鉄鋼製品市況は、2020年のオリンピック需要により明るい方向に向いつつあり、今後を期待している。」とのコメント。

『**工業薬品**』…「繁忙期に入り出荷は順調であるが、今後、益々過当競争が激しくなる。」「送料の値上げが厳しい。年末年始は忙しいが、その後は不透明である。」との声。

『**食品**』…「台風20・21号の影響で野菜・果実が1.5～3倍の高値になり、10～12月は高値が続くと思われる。来期も高値が続く商品があり、売上は増加するが利益は減少すると思われる。」とのコメント。

『**自動車部品等**』…「後継者不足などが原因で廃業する整備工場が、わずかであるが毎年発生している。」「ハイブリッド車が増え、ブレーキの摩擦材やベルトの需要が10%程減少している。また、20年程前に進出してきた大手同業者の影響も大きく、地元業者は売上を伸ばすことが難しい。」「2023～25年を目途に、従来のガソリン・ディーゼルエンジンが、ハイブリッド・電動・燃料電池車に変わることは間違いない為、その対策をしていかなければならない。」との声。

『**その他**』…「新富士駅富士山口駅前広場のリニューアル工事が始まる。富士市の玄関口のリニューアルが周辺の再開発へと広がり、観光客やビジネスでいらした方に楽しい時間を過ごしてもらえ場所になっていくことに期待したい。」とのコメント。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	12.5	75.0	12.5	0.0	下降
売上高	37.5	25.0	37.5	0.0	上昇
採算	20.8	54.2	25.0	▲4.2	下降

【小 売 業】 景気ムード…【厳しい状況】

『**衣料品**』…「人口減少・高齢化によりお客が減少している。また、若い客層は通信販売の利用が多い為、個人商店は益々厳しくなる。」「きもの業界は、益々厳しく存続が危うい状況である。」「振袖、七五三等の需要がレンタルに流れ、所有する意識がなくなっている。」との声。

『**各種食料品**』…「総じて縮小。大資本のチェーン店が増え、地域の専門店が減少している。」「和洋菓子専門店は平成7～16年までの10年間で約8,000店が廃業している。理由は、後継者がいない・親の商売に魅力を感じない・将来性がない等である。その中、コンビニ・通販の攻勢は今後一層強まり、衰退は更に進行していくと思われる。」との一方「活況を呈してきたように感じる。長く続くことを願う。」と明るい声も。「お茶は贈答品としての地位低下が著しい様に思える。高級志向の仲間入りをするための戦略が問われる。農地（特に茶畑）の宅地転用が加速している。」「最近の景況調査の数字を見ると回復基調に入ったようだが、個人消費の動向をみると必ずしもそうとは言い切れない。しかし、現状が普通

の状態だととらえ、売れないことが外部要因によるものとせず、常に売れる商品やシステムを考え生み出していくことが肝要と考えている。とのコメント。そのほか「小売業の人手・人材不足は深刻な問題である。常葉大学が撤退することにより、休日や深夜の働き手が極端に減少した。」との声。

『自動車』…「2017年国内市場での自動車販売が2年ぶりに500万台となる。完成車検査問題の影響が今後どのように影響するか不透明である。」とのコメント。

『自転車』…「販売台数、売上は前年よりマイナスとなった。特に趣味嗜好商品（ロードバイク等）は前年より大きくダウンしている。」「2018年モデルの仕入単価が8~10%値上げされる。」との情報。

『日用品・雑貨』…「本場アメリカのトイザラスが倒産した。主な要因は、アマゾンに顧客を奪われたことである。小売は、通販とコンビニしか生き残らないと聞いたことがあるが、概ね当たっていると思う。」「富士市の人口が数年前に予想された以上のペースで減少していると聞いた。生き残るためには当店も引き続き通販に活路を開くしかないと考えている。少しずつだが、手応えも感じている。」とのコメント。「金属（ステンレス材、鋼材、アルミ材等）が値上がっている為、鍋や番線等の製品の値上がりが続いている。」

『住宅設備機器』…「仕事はあるが、人手不足で納期に間に合わない為、受注を断念している。」

『家電』…「白物家電（エアコン、洗濯機、冷蔵庫等）の需要が伸びている。年末でも目立った変化はなく、年間を通して平均化している傾向である。」とのコメント。

『機械器具』…「ガソリン価格の動向が気になる。全体的に経費増になると思われる。」との声。

『その他』…「商店街への客足は減るばかりである。吉原市民広場に、マックスバリュが進出してくる。吉原商店街としての立ち位置を意思統一する必要があると思う。」「富士山世界遺産登録後、観光産業に力をいれたところとの差が明らかである。」とのコメント。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	13.0	43.5	43.5	▲30.5	上昇
売上高	26.1	21.7	52.2	▲26.1	上昇
採算	0.0	40.9	59.1	▲59.1	上昇

〔サービス業〕 景気ムード…【厳しい状況】

『飲食』…「コーヒー豆の原産地では、不作のようである。弊社は大手メーカーから提供してもらっており、現在はストックがあり安定しているが、近い将来豆の高騰が予想され、その対策に苦慮している。」との声。「売上については好調であり、しばらく維持できると思われる。」「新年は消費が増加し、好転してくると予測している。」とのコメント。「人材不足の為、人件費の単価アップを余儀なくされている状況である。」との情報。

『衣類等クリーニング』…「経費増加分を商品価格に転嫁しづらい為、今後も企業努力が必要となっている。人材確保は事業継続には必須条件となっているが、人件費が上がり続けており厳しい状況である。」との声。「ガソリンの値上げが続いている。資材の原材料も値上がり始めた。」とのコメント。

『運輸・倉庫』…「悪くなく、今後も変わりはないと思われる。」との一方「紙をメインに輸送しているが、国内の紙需要の低下に伴い、輸送需要も低下している。中東不安、アメリカの北朝鮮政策等により原油価格が高騰しており、利益を圧迫している。」との声。

『不動産』…「今期予定額の宅地分譲地の仕入れが確保でき安心している。沼津市のららぽーとプロジェクトが始まったので、岳南地域の住宅環境が変わると思われ、今後のユーザーの動向が気になる。」「沼津に『ららぽーと』が出店する事により、富士市の消費者の流出が懸念される。」とのコメント。「相続等で土地を処分するケースが増えていることもあり、市内のいたるところに売地が目立つ。販売状況も現状では堅調だが、いつまで続くかは不透明であり、明るいとは言えない。」「岩松では分譲地が増えており、今後も相続対策等で売地や空き家（中古住宅）が増えると思われる。」との声。今後について「中

心市街地の土地価格は下がらないが、郊外の土地価格は下降し、売却に時間がかかるようになる。」「動きが鈍くなっているが、今後は国の政策もあり不動産は動きやすい状況になると思われる。いかにその情報を掴むかによると思う。」とのコメント。「賃貸では、ユニークな個店が増え、人気のある店は行列ができており、変化の兆しが窺える。」との情報。

『求人広告』…「求職者減少により、求人サイトの掲載顧客減少という悪循環が進んでいる。また、価格競争により販売価格も下がってきている。」とのコメント。

『各種学校』…「相変わらずの少子高齢化、車離れ等による逆風ばかりである。より厳しくなっていくと思うが、独自のブランディングを図るとともに人材育成や新規事業も探していきたい。」との声。

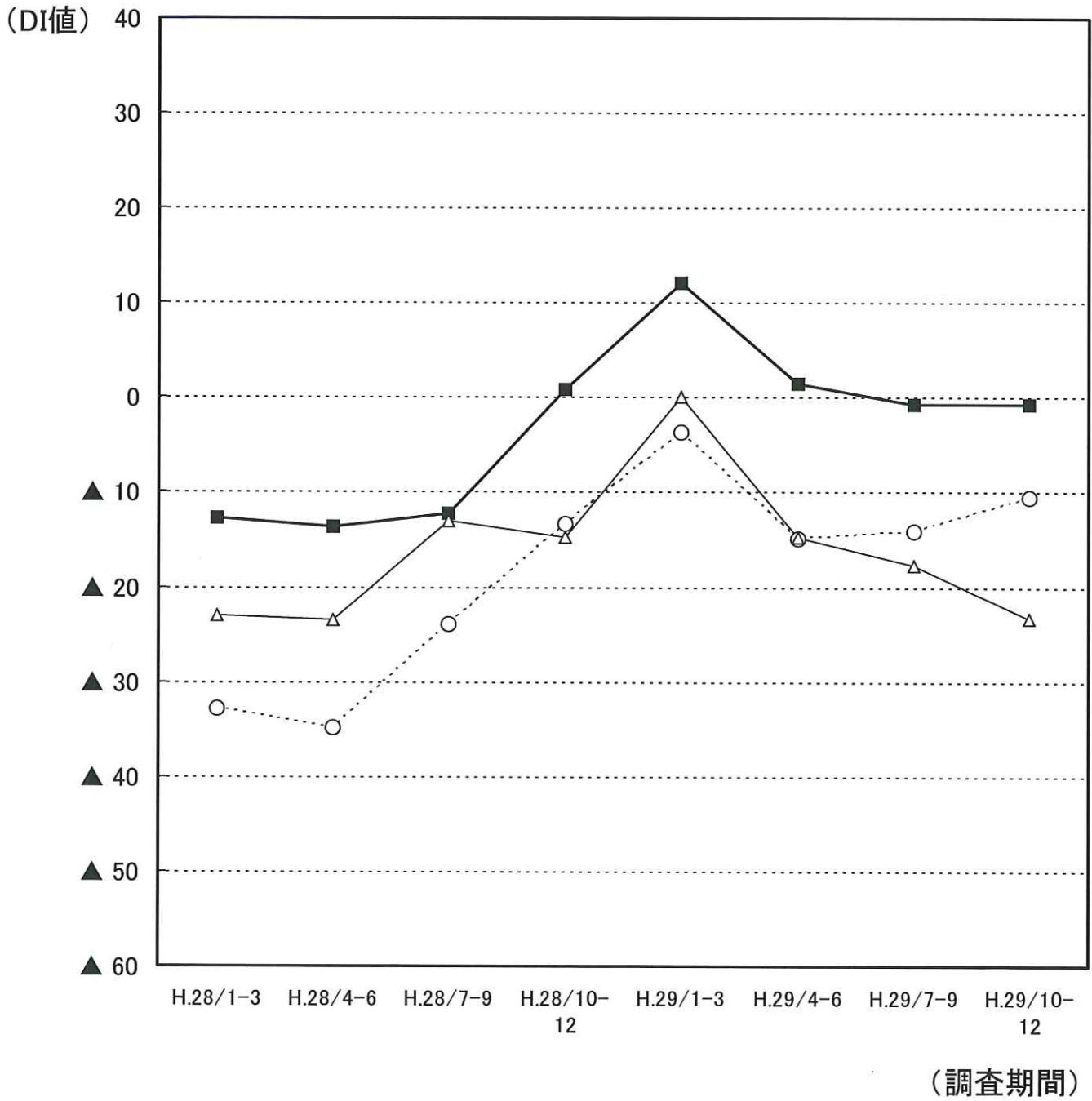
『専門サービス』…「以前より過当競争となっている。今後は、過当競争の激化・新規需要の低迷により、さらに付加価値の高いサービスが求められていく。」とのコメント。「今後の中小企業においては、事業承継が重要な問題となる。」との声。

『その他』…「本市の主力産業の一つである自動車関連産業においては、EV化が進むとエンジン部品を中心に30%が削減されるという。県西部地域では業界や商工業団体が次の産業化に向けて議論を加速しているようである。本市においても早急に対応すべきではないか。」とのコメント。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	4.2	54.2	41.7	▲37.5	横ばい
売上高	20.8	45.8	33.3	▲12.5	下 降
採 算	8.3	50.0	41.7	▲33.4	下 降

全産業主要調査項目の 前年同期比DI推移状況

—■— 売上 ...○... 業況 —△— 採算

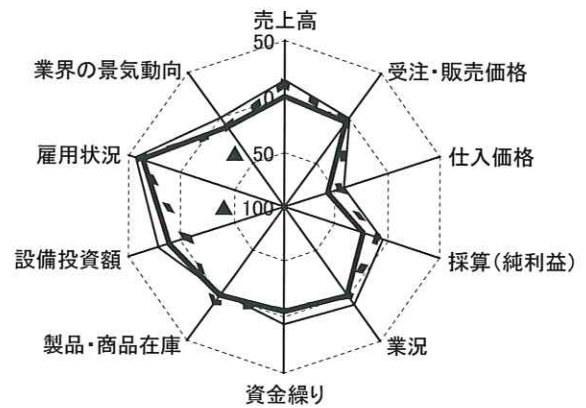


レーダーチャート

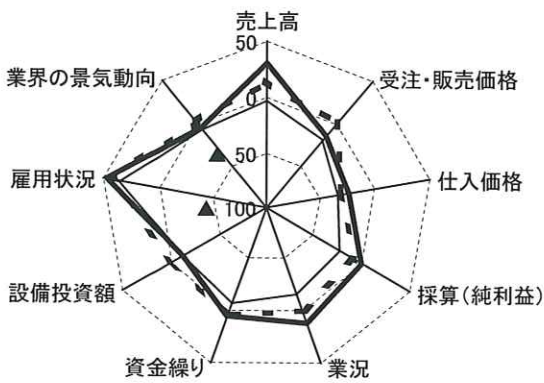
売上高	増加・減少
受注・販売	上昇・下降
仕入価格	下降・上昇
採算	好転・悪化
業況	好転・悪化
資金繰り	好転・悪化
製品・商品在庫	減少・増加
設備投資額	増加・減少
雇用状況	不足・過剰
業界の景気動向	好転・悪化

前年同期比	———
来期予測	———
前回調査時	- - - - -

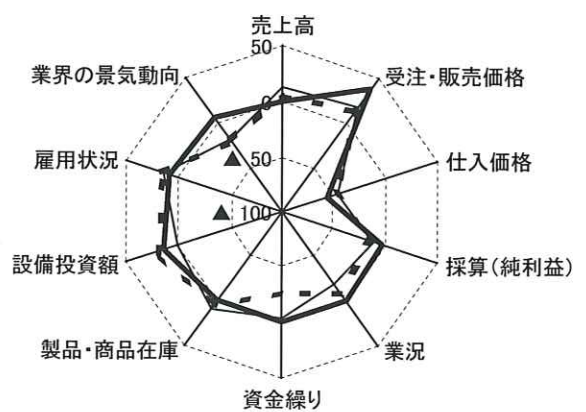
【製造業】



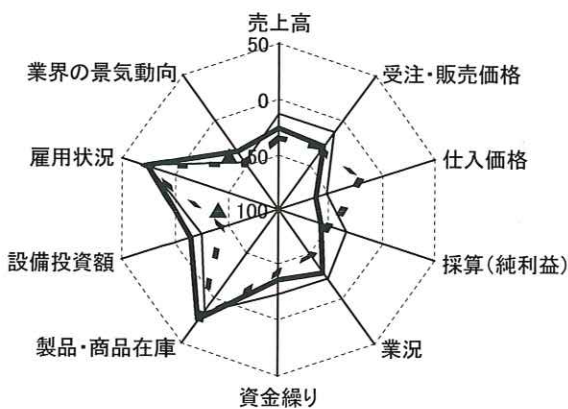
【建設業】



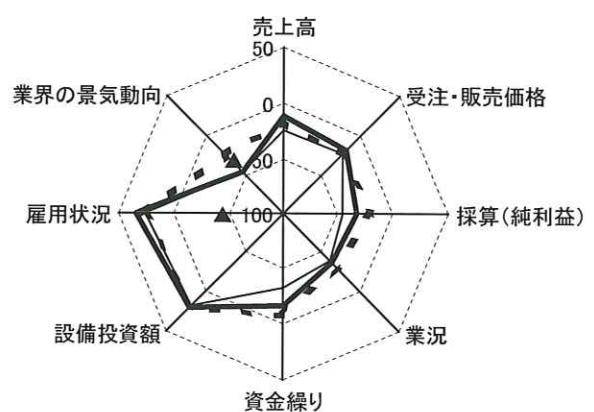
【卸売業】



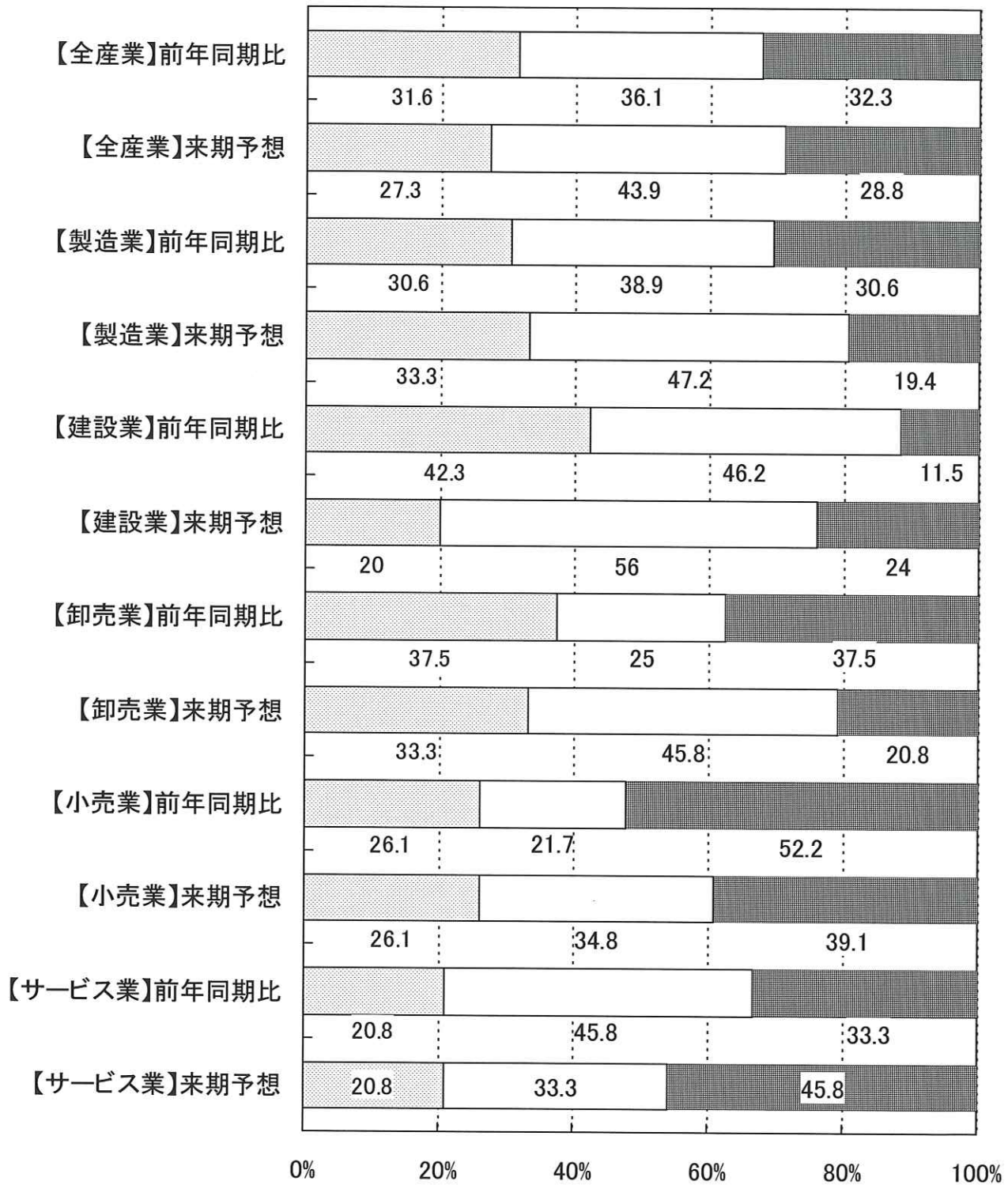
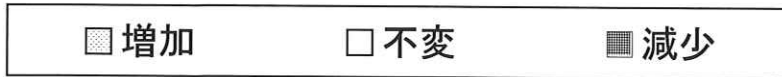
【小売業】



【サービス業】



売上高の前年同期比と来期予測



◇ 経営上の問題点 ◇

産業別	上位回答項目
製造業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇／設備老朽化</p> <p>2 位 人材不足</p> <p>3 位 人員不足</p> <p>その他 販売価格値上げ難</p>
建設業	<p>1 位 売上減に伴う利益減／人材不足</p> <p>2 位 過当競争／官公需停滞／商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>3 位 人員不足／設備老朽化</p> <p>その他 販売価格値上げ難／その他の経費増大／売上、利益減による資金圧迫</p>
卸売業	<p>1 位 過当競争</p> <p>2 位 販売価格値上げ難／商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>3 位 人材不足</p> <p>その他 売上減に伴う利益減</p>
小売業	<p>1 位 売上、利益減による資金圧迫</p> <p>2 位 売上減に伴う利益減</p> <p>3 位 過当競争</p> <p>その他 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p>
サービス業	<p>1 位 売上減に伴う利益減</p> <p>2 位 設備老朽化</p> <p>3 位 過当競争</p> <p>その他 人件費高騰</p>